

別府鉄道 探訪

旅客輸送については前回お話ししましたが、今回は貨物輸送についてお話しします。

昭和30年代後半に入り、明石から高砂にかけての海岸線が東播磨工業特別地域の指定を受け、重要港湾に指定されると、いよいよ別府港の埋め立てが始まり工業港化が進んでいきます。それに伴って、別府海水浴場が閉鎖され、鉄道の旅客数は減っていきましたが、戦後の好景気により貨物輸送は増加を続けました。

それまでの貨物輸送は母体である多木化学(株)の自社製品が主でしたが、神戸製鋼の別府港進出が決まったことで、それら大工場の製品輸送にも別府鉄道を利用してもらうことを期待しました。臨海工業地帯の輸送を助け、旅客輸送に代わる鉄道輸送の新たな役割と可能性を求めたのです。

しかし、モーターゼーションが進み、大型トレーラーやトラック輸送の普及により、依頼主から送り先までの直接輸送が可能になったことから、次第に鉄道輸送が廃れていくことになりました。昭和42年1月から別府港の埋め立てが開始され、年間22万トンという最盛期を迎えた昭和44年を境に、別府鉄道の貨物輸送は減少の一途をたどっていきます。

昭和40年ごろ 土山駅から別府港に向かう列車 (安保彰夫氏撮影)



モーターゼーション

自動車が一家庭に普及し生活必需品になる現象。日本では、舗装道路の整備や自動車価格の低下により昭和40年代以降にこの現象が進みました。

*このコーナーでは皆さまからの「別府鉄道の思い出」を募集しています。(郷土資料館)

きんり 光ってる イ・仲間たち

このコーナーに登場してくださる「人、仲間たち」をご紹介ください。自薦・他薦は問いません。企画調整課

ヘルスアートの自彊道

代表 森下 良子さん

活動(結成)をはじめられたきっかけは?

自彊道は健康を維持するのに、いい体操だと思えました。道具もいらず、畳一畳の広さででき、若い人から高齢者までその人の体の状態に合わせてできる体操です。

グループのメンバー構成は?

40〜70歳代まで、幅広い年齢層で活動しています。毎日の生活で肩こりや腰痛などがあり、何とかしたいと思っている人や、健康で毎日を明るくしたいと思っている人が多いです。

活動の内容は?

31の動作からなる「自彊道」という



▲心も体もスッキリします

健康体操と、呼吸法を取り入れた気功操を行っています。毎週木曜日の午前10時から11時30分まで、中央公民館で楽しく体を動かしています。

グループのモットーは?

体も心も環境(人の和)も、無理せず楽しく健康に。

ユニークなエピソードがあれば教えてください。

最近、野添であい公園で体操をし、バーベキューも楽しみました。その後、ゲームをし、「わっはっは」と大きな声で笑いもし、楽しいひと時を過ごしました。いろいろな行事も計画して笑いの絶えない明るく楽しい教室が目標です。

▲活動日が楽しみです

